

社団法人 冷凍食品協会 御中

小誌『週刊女性』3月24日号「冷凍食品工場」の記事に関して

拝啓

このたびは小誌『週刊女性』の記事においてお世話になりました、先日、お時間を取っていただき説明いただいた箇所に関して、取材の経緯、編集部の見解を下記にまとめました。お忙しいところ誠に恐縮ではありますが、ご一読いただけますと幸いです。

敬具

【取材経緯】

- 小誌『週刊女性』1月27日号の記事を読んでいただき、担当編集に冷凍食品工場の見学のお誘いをメールでいただいた。
- 担当編集は、すぐに企画会議にかけ、デスク、編集長の同意を得て取材を進めた。
- 2月27日、ライターと担当編集が取材。
- ライターが記事にまとめ、担当編集がチェック、入稿（＝印刷所へ入れる）。
- 入稿翌日、デスク（副編集長）が確認し、校了（＝印刷所へ戻す）。このとき、訂正箇所を指摘し、担当編集に直させる。
- 校了翌日、編集長が念校で確認。

【編集部の見解】

まずは、今回、小誌の記事に関心を持っていただき、工場を見学させていただく機会をいただいたにもかかわらず、貴協会およびニチレイフーズ船橋工場が伝えたかったことが、誌面に反映されるどころか、読者に誤解をされかねない記事になっていたことと受け止めております。貴協会はもちろんのこと、工場を開放し、時間を取って説明をいただいた、ニチレイフーズ船橋工場の皆様にお詫び申し上げます。

今回の記事に関しては、約1年前の中国冷凍餃子の事件を頭に刷り込ませて、それと日本の工場ではどのように管理体制が違うのか、日本の工場は安全だと安心したいと思って見学を行い、記事を構成いたしました。しかし、それがうまく表現できずに、貴協会からの文書での指摘にある通りの「的外れな批判」につながったと考えます。

今後は、このようなことがないように、ご指摘いただいた箇所を真摯に受け止めて、取材活動をしていきたいと思っております。

平成21年3月25日

㈱主婦と生活社 法務室

㈱主婦と生活社 『週刊女性』編集部